

令和 7 年度米子市地方創生有識者会議 議事録(概要)

[日 時] 令和 7 年 8 月 20 日 (水) 午後 1 時 30 分から午後 3 時 30 分まで

[場 所] 米子市役所 4 階 401 会議室

[出席委員] 森田委員 (座長)、高増委員 (副座長)、伊藤 (理) 委員、藤縄委員、岡村委員、小川委員、齊木委員、鹿子生委員、平田委員、伊藤 (祐) 委員、西谷委員、小谷委員、澤田委員、曾田委員、塚田オブザーバー

[欠席委員] 松井委員、神戸委員、深田委員

[出席職員] 伊澤副市長、佐々木総合政策部長、長谷川教育委員会事務局長、石田文化観光局長、田仲観光課長、成田スポーツ振興課長、大塚文化振興課長、坂隠商工課長、宮本経済戦略課長、永榮こども政策課長、最上情報政策課長、渡部福祉政策課長、頼田フレイル対策推進課長、倉本交通政策課長、斎木まちづくり企画課長、景山地域振興課長補佐、石原都市創造課長補佐

[事務局] 中本総合政策課長、松本総合戦略室長、末次係長

※いずれも順不同。

以下、議事概要 (※議事進行及び資料説明は省略)

1 開 会

2 新任委員紹介

3 副市長あいさつ

この有識者会議は、今回で 11 年目。地方創生という言葉が盛んに叫ばれるようになり、11 年目ということになる。その間に、地方、あるいは日本全体が、必ずしも上向きに回り続けているわけではないというのが、多くの方の実感ではないかと所感する。

そういった中で、行政はもとより、市民、各企業、各団体が力を合わせて様々な課題に取り組んでいくことが、これまで以上に重要だということを感じている。この会議において、有識者の皆様からの貴重なご意見を、米子市政に取り入れさせていただきたい。忌憚のないご意見をよろしくお願いします。

4 座長・副座長選出

(森田委員を座長、高増委員を副座長に選出)

5 座長あいさつ

本日は、計画期間が令和 6 年度までの「(第 1 次) 米子市まちづくりビジョン」の総括評価を

行いながら、令和 7 年度からの「第 2 次米子市まちづくりビジョン」について議論することになる。

米子市の地方創生の実現に向け、積極的なご意見を願う。

6 議 事

(1)「(第 1 次) 米子市まちづくりビジョン」の令和 6 年度の実施状況について

(米子市) 資料説明 (資料 1～6)

(高増副座長) 資料 1 に「移住者数が県内で 2 年連続 1 位となる」旨の記載があるが、説明を願う。

(米子市) 鳥取県が、毎年、鳥取県の定義による移住者数を公表しており、そのデータに基づくもの。例として、令和 6 年度においては、米子市が 558 名、鳥取市は 508 名、倉吉市は 353 名、境港市は 184 名。

(高増副座長) 移住者が多かった理由を分析されていれば教えていただきたい。また、移住定住の施策があれば併せて教えていただきたい。

(米子市) 米子市は、基本的に、まさに今ご議論いただいている地方創生の取組を含めた様々な施策による市民生活充実をしっかりと進めることが、最終的には移住定住の増加にも繋がるという考え方に基づいている。そのため、いわゆる、移住者に対して補助金を出すといったような施策は行っていない。それでも多くの方々に当地をお選びいただけているのは、やはり我々が行っている全体施策、あるいは元々米子市が持っている地域特性、都市機能をご評価いただいているのではと考えている。

(伊藤(祐)委員) 資料 4 の「広域連携による観光振興、インバウンド対策の推進」に係る「市内の外国人宿泊客数」についてお伺いする。目標値 105,000 人に対し、令和 6 年度実績が 25,408 人となり、かなり目標とは乖離している状況。既にアフターコロナの状況下において、客足の回復が弱い原因や、今後の見込みについて説明願う。

(米子市) ご指摘の点は、米子市としても大きな課題と認識している。情報発信や受入環境整備についても取り組んでいるものの、必ずしも思うような成果に繋がっていない実体がある。国全体においては訪日客数は上昇しているが、地方においては地域差が生じているのも事実。今後の展望としては、国際便の拡大、新規就航がポイントになると捉えるが、訪日客に当地を楽しんでいただこうと思えば、やはり夜の宿泊や飲食がベースになる。そういった市内飲食店の外国語メニュー整備に対する支援などといった受入環境整備を進めながら、インフルエンサーの活用や訪日外国人情報サイトの活用による情報発信に取り組んでいるところ。また、宿泊、飲食以外の部分については、訪日客に楽しんでもいただける仕掛けづくりを一つ一つ進めていく必要があると考えている。ぜひ皆様からも、様々な知恵やアイデアをいただければありがたい。

(2)「第 2 次米子市まちづくりビジョン」について

(米子市) 資料説明 (資料 7)

（高増副座長）資料に記載のある「ふるさと住民登録制度」について、内容を説明いただきたい。

（米子市）これは、国が「地方創生 2.0 基本構想」の中で示されているもので、いわゆる関係人口の取組の一環。地域に住民票がない方を関係人口としてシステム等で登録して、居住地域外への関係性を作っていくことを想定されているもの。

（森田座長）同じく、資料に記載のある「二地域居住」について、内容を説明いただきたい。

（米子市）二地域居住促進法という法律が国で制定されている。その考え方に沿って例を示せば、週末だけ地方で過ごして、平日については都会で働くといったライフスタイルを示すもの。

（森田座長）単純に、仕事で地方に訪れることとは関係がないものか。

（米子市）ライフスタイルの在りようは様々であるが、二地域居住の概念としては、主な生活拠点は元の地域に残したまま、別の地域にも生活の拠点を持つことと捉えている。

（高増副座長）米子市としては、例えば、住民票は都会だが、週末は米子で過ごすという方も関係人口として歓迎するという方向性ということでしょうか。

（米子市）まだ具体的な方針までは定まっていないが、住民票のない地域への関わり方というのは、現在国でも議論されているところ。地域活動であったり、ふるさと納税であったりといった具体的な地域への関わり方については、米子市も今後検討していきたいと考えている。

（3）意見交換

（伊藤（理）委員）自社は誘致企業であるが、米子市に赴任した社員からは、自然環境や生活の利便性が高いと好評。米子の環境を活かし、グループの会議や社員研修の実施など、様々な手法を検討し、関係人口の創出に貢献したい。市には、企業側が気づかないイベントや取組の情報を積極的に提供してもらい、連携を深めていきたい。

（藤縄委員）駅前通り近辺では、平日夕方や休日に駐車場が満車になるなど、人の流れが生まれていることを実感している。一方で、人流の増加に伴って交通渋滞が生じつつある箇所も見受けられる。

（岡村委員）地元企業が深刻な人手不足に陥っている現状で、企業誘致を続ける必要性について検討を願う。誘致が移住者増に繋がる効果は認めるが、地元の課題解決が優先ではないか。近く、安来市に大型の工場ができるとのことだが、更に米子から労働力が流出するリスクを懸念する。例えば、空き家対策との連動や、市が商社機能を担うなどの、中小企業の生産性向上を支援する施策を検討されたい。また、人口減少対策として、社会増減をプラスに転じさせる、あるいは歯止めをかける施策が必要ではないか。

（小川委員）企業支援と地域活性化は一体であり、地域が元気でなければ人材は確保できない。自所では、単発のイベントで終わらせず、周辺の7つの商工会が連携し、サイクリングイベントと宿

泊、地域の歴史や食を絡めた体験ツアーを組み合わせることで、滞在価値を高める取組を行っている。行政も市単位でなく、鳥取県西部全体といった広域的な視点で「人・物・金」を効果的に活用し、連携して地域活性化に取り組むべき。

（齊木委員）将来の人口確保・人材確保のためには、子ども時代からの教育が重要。小学校の総合学習などで地域の伝統芸能をはじめとした歴史や文化に触れ、自分たちのまちの良さを知る機会を増やすことで、郷土愛を育み、将来「米子に住み続けたい」と思える心を育てる必要がある。

（鹿子生委員）米子から通える大学が少ないため、多くの高校生が県外に進学し、そのまま県外で就職してしまうことが若者流出の大きな要因であり、一度県外に出た若者にＵターンしてもらうための地道な活動が不可欠。市の実施される「米子まちなかハイスクール」は、高校生が地元の良さを再発見し、将来のＵターンに繋がる可能性を秘めた取組と評価する。自行庫で実施している高校生向けビジネスプラン講座などを通じ、市の取組と連携しながら、若者のアントレプレナーシップ（起業家精神）醸成に貢献したい。

（塚田オブザーバー）県の出先機関として、日頃から米子市とは様々な分野で緊密に連携し、この地域の振興に取り組んでいる。個人的な視点として、長年自治会役員を務める中で、空き家の増加や新住民の自治会未加入といった課題に直面している。行政の大きな施策だけでなく、こうした小さな地域単位での課題解決や活性化にも取り組んでいく必要があると感じている。

（曾田委員）20代女性の視点から意見する。米子市の子育て環境はデータの的にも充実している。婚活イベントのカップリング率自体は高いので、難しいと思うが、その後の成婚・出産までどう繋がっているかを追跡できると、より効果的な施策に繋がる。また、若者が地元で働くには「働く場所の情報」が重要。若者本人への直接的なアプローチに加え、彼らの親世代にも企業の魅力や就職イベントの情報を届けるアプローチが効果的だと考える。

（澤田委員）鳥取大学医学部附属病院の再整備が米子市にとって極めて重要。新病院建設は単なる建物の建替えではなく、「医療充実都市・米子」のまちづくりを前進させるソフト事業とも捉えるべき。DXを活用した病院間連携やフレイル予防対策など、限られた医療資源を有効活用する取組が既に始まっている。新病院建設や市のまちづくりには、米子市名誉市民である経済学者・宇沢弘文氏の「社会的共通資本」という理念が根底にある。こうした政策の背景にある先人の思想や物語を、メディアとも連携しながら市民や子どもたちに積極的に発信し、シビックプライドの醸成に繋げてはどうか。

（平田委員）生産者の高齢化が深刻で、既に70代が中心。数年後には担い手が激減しかねない危機にある。また、近年の猛暑で、ネギが枯れ、販売額も半分以下になるなど、厳しい状況が続いている。令和の米騒動もあったが、生産者が農業を継続できるよう、持続可能な農産物価格

の維持が必要である。「米子市まちづくりビジョン」に掲げられる「6次産業化の新規取組件数」の結果が芳しくなく、やはり、この米子でなければ食べられないような食材やその6次産業化を何とか一つでも進めるべく、一緒になって検討を進めていきたい。

（小谷委員）企業の魅力を発信する際、企業の技術力等を生かした「働きがい」だけでなく、「働きやすさ」の視点も重要。有給休暇取得率や女性管理職の割合など、働きやすさに関する国の認定制度を活用し、認定企業を市がPRすることで、市内企業の労働環境改善を促し、「働きやすいまち」としてアピールできるのではないかな。

（西谷委員）大規模な企業誘致は、新たな雇用創出や移住者増に繋がり、まちを活性化させる大きな意義がある。また、地方が外から稼ぐためには観光が極めて重要。米子の魅力を再評価し、もっと積極的にアピールすべき。米子の強みとして、「東京から2時間で行ける温泉地」「大山」「空港」といった強力な資源がある。鳥取大学医学部や米子高専の存在も、都市の強みとして発信できる。

（伊藤（祐）委員）水面下で、地域の中小企業が県外資本にM&A（企業の合併・買収）される事例が増加している。この動きが将来の地域経済に与える影響を行政、民間双方が注視すべき。一方で、県外企業を買収したいという意欲的な地元企業もいるため、官民一体でマッチングなどを支援する体制が必要。米子は住みやすいが、地元住民がその良さに気づいておらず「シビックプライドの醸成」が重要。ただし、自然や食といったノスタルジックな魅力だけでなく、鳥取大学医学部附属病院の再整備や米子境高規格道路の建設といった「未来へのポテンシャル」や「将来性」も含めて醸成していくべき。

（高増副座長）高齢化が進む中、地域の拠点である公民館の今後のあり方をハード、ソフトの両面から市が主導して検討されたい。米子アリーナや新病院、米子境高規格道路などの大規模事業が見込まれるが、これらは50年、100年と使われるもの。市民に開かれた形で、分かりやすくプロセスを進めてほしい。また、中心市街地で増加する空き家・空き店舗などの遊休不動産を活用するため、市の関係部署が連携を強化して取り組むべき。

（森田座長）地域の発展には、若者のUターン促進など「人材確保」が最重要課題。自所の新たな取組として、企業とスポーツ人材をマッチングさせ、労働力と競技生活の場を一体的に提供することを検討している。また、今後始まるであろう米子境高規格道路の整備は、総事業費3,500億～5,300億円とも言われる一大プロジェクト。建設中の経済効果（フロー効果）だけでなく、完成後にそのインフラが機能することで、継続的かつ中長期にわたって得られる効果（ストック効果）をどう活用していくかを最大化するための戦略を、今から官民で検討していく必要がある。

（米子市）※伊藤（理）委員のご意見に対して

本市をフィールドとした研修等の企画は非常に魅力的であり、貴社において具体的な動きとなれば、ぜひ相談させていただきたい。宿泊施設の閑散期対策として、同趣旨のマッチングを検討したこともあり、うまく実現に繋がっていければと考える。

（米子市）※藤縄委員のご意見に対して

駅前の賑わい向上のご評価は、多くの方からいただいている。それとともに、渋滞リスクの高まりについても認識している。現在、県と連携して市街地の交通ネットワークの検証を進めていただいているところ。ドライバー不足や赤字路線の在り方を含め、公共交通の維持という問題と両立させながら、道路交通と市民生活の円滑化に取り組む。

（米子市）※岡村委員のご意見に対して

人手不足下での企業誘致は、非常に難しい問題と認識している。工場は建てることができて、そこで働く方をどうやって確保するかは別の課題であり、すべてを移住者でカバーできるわけではない。外国人労働者を大量に受け入れたとしても、また、別の課題が生まれる場合がある。一方で、現実には、Uターン希望者の受け皿不足というミスマッチも存在する。企業誘致も適切に取り組みつつ、市内企業の人材確保にも取り組むことが重要。

（米子市）※小川委員のご意見に対して

広域観光の視点に同意する。観光客には行政区は関係がないため、圏域としての取組を一層推進する。今後の課題は、これらの取組をいかにビジネスとして成立させるかだと考えており、これも関係各位と連携しながら進めていきたい。

（米子市）※齊木委員のご意見に対して

地域の伝統や歴史、文化に子どもたちが触れる機会を設けるというご主旨に同意する。伝統文化には地域の息遣いが残っており、先輩が後輩に伝えるという縦のつながりも生まれる。学校教育や地域教育の場で積極的に活かしていきたいと考える。

（米子市）※鹿子生委員のご意見に対して

高校生などが地域課題に取り組む探究学習は非常に重要だと認識している。「米子まちなかハイスクール」をはじめ、行政が進めるもの、あるいは側面的に協力するものも含め、今後も推進していく。民間団体で実施されるものについても、ぜひ一緒になって進めていきたい。

（米子市）※塚田オブザーバーのご意見に対して

地域コミュニティの維持、再生は重要課題の一つ。市としても体制の構築などを試行錯誤しながら進めている状況であり、地域の方々のご意見を伺いながら、また公民館のあり方と併せて検討していきたいと考えている。

（米子市）※曾田委員のご意見に対して

婚活支援については、重要な課題であるものの、個人の人生観にも関わることから、行政の介入が難しい分野でもある。まずは、若者が自然に交流できる機会や場を増やすことから取り組みたい。結果として、若者が「この地域で暮らしてよかった」と思えるようなまちづくりを進めていきたい。

（米子市）※澤田委員のご意見に対して

病院の再整備については、米子の未来へのまちづくりそのものと捉えている。DX化による限られた医療資源の活用や、自動運転技術による新たな交通システムの導入なども進めつつあるところ。市民のご意見を伺いながら、またご理解をいただきながら、丁寧に進めてまいりたい。

（米子市）※平田委員のご意見に対して

農業の厳しい現状は認識している。特に6次産業化の実績がゼロである点については、なかなか地元食材等を用いた商品造成に至っていない実態があり、反省点と捉えている。食品産業の関連企業はもとより、市の農業部局だけでなく経済部局も含め、全体で取り組んでいきたいと考える。

（米子市）※小谷委員のご意見に対して

国の認定制度については、鳥取県西部ではあまり認定がないということも伺っている。認定制度も含めた就業環境と生産性の向上について、労働局はじめ関係各位のお力をいただきながら、市内企業の支援に取り組んでまいりたい。

（米子市）※西谷委員のご意見に対して

旅行形態や交通事情の変化による、「東京から2時間で行ける温泉地」というもののニーズの高まりについては、我々も伺ったことがある。こういった時代の変化を適切に捉えながら、地域の魅力について、しっかりと情報発信を行っていきたい。

（米子市）※伊藤（祐）委員のご意見に対して

外から資本が入ってくること自体は決して悪いことではないが、それらが本市の経済に与える影響を注視していく。シビックプライドについては、米子の未来にワクワクするような機運を、市民と一体となってビジョンを描きながら醸成してまいりたい。

（米子市）※高増副座長のご意見に対して

公民館のあり方については、重要な課題と認識しており、様々な取組を進めているが、具体的な成果に至っていないのが実情。公民館はもっとも身近な地域拠点であり、運営体制の見直しも含めて有効な活用の検討を進める。米子境高規格道路といった大規模プロジェクトについては、市民とプロセスを共有しながら進めてまいりたい。空き家対策も、難しい課題ではあるが、これも市民と意識を共有しながら取り組んでいきたいと考える。

（米子市）※森田座長のご意見に対して

スポーツ人材を活用した取組というものは、改めてお話を伺い、運動できることがあればぜひ一緒に進めさせていただきたい。米子境高規格道路については、計画段階評価への着手が決定したところであり、しっかりと実現に至るべく、引き続き要望活動等に取り組んでいきたい。また、実現に至った後を見据えた動きというものは、当然、同時に取り組んでいく必要があるが、これも市民、関係団体と一緒に進めさせていただきたい。

（米子市）皆様の貴重なご意見に感謝申し上げます。様々な課題はあるが、いずれも皆様と連携して取り組んでまいりたいので、一層のご協力を願う。

7 その他（特になし）

8 閉 会